

## セッション2-A 「権利・制度のまちづくり1」

座長：北川博巳（東京都老人総合研究所）

### 2a-1 介護保険と支援費制度－理念は整合しているのか？－

発表者：古瀬敏（静岡文化芸術大学）

ここ近年制度が大きく変わりつつある介護保険と支援費制度双方の整合性について問題提起を行っている。介護保険における日本とドイツとの考え方の違いや今後考えられる新たな展開について議論が深まった。

### 2a-2 人が人を支えあう社会を－黄色いハンカチ運動 民間における社会福祉運動の事例－

発表者：佐藤若葉（NPO全国黄色いハンカチ推進本部）

内部障害は見えない障害と言われ、黄色いハンカチを内部障害の合図として普及したこれまでの活動実績、経緯に関して説明があった。成果として企業や商店などの協力を得ており、成功の鍵としては「共感を得ること」、「女性をターゲットに話をすること」などについて議論が深まった。

### 2a-3 地方公共団体が実施する移動制約者に対する交通施策に関する研究

発表者：谷内久美子（兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所）、宮崎貴久

地方公共自治体ではバスの無料バス制度など様々な交通助成制度が存在する。この研究では都市部から人口過疎地に至るまでのこれら制度の活用状況などについての調査結果を報告していた。今回は自治体を対象としたアンケートであったが、利用者の観点からさらに考察を深めて欲しいなどの要望があった。

### 2a-4 科学的根拠に基づく健康づくり：千葉県健康生活コーディネート事業と参加者のQOLの関連

発表者：柳堀朗子（千葉県衛生研究所） 小路まさ子

地域に居住する高齢者の健康づくりはこれからのわが国の大きな課題であり、実際の実践事例と運動をすることによる科学的根拠について示した画期的な発表であった。これら事業の継続性や今後の展開について議論が深められた。

## セッション2-B 「観光地・観光バリアフリー1」

座長：寺島薫（㈱アークポイント）

今大会で初めて観光バリアフリーのセッションが設けられ、3セッション、16の論文が報告された。そこで3つのセッションの始めに16の論文のテーマを解説しそれぞれの研究の位置関係を明らかにした。今大会では「旅行者支援・介助」「移動・交通アクセス」「情報」「施設」「政策・考え方」をテーマにした研究が報告されたが、今後サービス、緊急対応、まちづくりなど多様なテーマで観光バリアフリーの研究が展開されると予想される。

### 2b-1 知的障害者にとっての森林環境と都市環境－森林内活動反応の基礎的研究－

発表者：赤城 建夫（ちば発達評価・心理指導ルーム〈ちばからころルーム〉）

知的障害者にとって、屋外活動がどのような感情を招き、受け止められているのかの研究である。重度の障害者は活動を自ら方向づけることが難しいため、プログラムがあった方が良い反応を示したことが報告された。会場からは森林公園への外出自体に転地の効果があるのではないかの質問が出されたが、現段階では精査されていないようである。唾液の分析と観察による評価の説明時間が殆ど無かったこともあり、この研究にはまだ多くの未解明の要素があるように感じられ、評価は今後の研究に委ねたい。